

公的統計マイクロデータ研究コンソーシアム第 24 回運営委員会

議事録 (案)

- 1 日時 令和 5 年 3 月 2 日 (木) 10 時 00 分～12 時 00 分
- 2 場所 オンライン会議 (ZOOM)
- 3 出席者 (運営委員) 南委員長、伊藤副委員長、伊原委員、岡本委員、佐藤委員、重里委員、田中委員、山下委員
- 4 概要

(1) 前回の議事録の確認

第 21 回運営委員会(オンライン)の議事録について、資料 3 に沿って概略を説明し、確認した。

- 再度確認した上で特に異議があれば事務局へ連絡して欲しい。

(2) 第 1 号議案：コンソーシアム会員の認定について

新規の入会申込者について、資料 4 (投影のみ) に沿って説明し、審議、了承した。

(3) 第 2 号議案：匿名化議事録の一般公開について

匿名化議事録の一般公開について、資料 5 に沿って説明した。

- 現在、運営委員会議事録、および、評議会議事録については会員のみの限定公開となっている。12 月の評議会で「一般にも公開した方が良い」との意見があり、今後の一般公開実施について審議したい。
- 一般公開に異論はなく、コンソーシアムが今後どういったことを考えて活動しているのかを一般に知ってもらうのは意味のあることだと考えている。一方で、活動に関わる議論についてなどは公開する必要はなく、公開する情報の粒度というのが論点になってくると思う。
 - 現在は個人を特定できるような内容や、計画段階のため表に出しにくい内容については、匿名版では削除している。内部用として記名版で情報を残している状況。
- 一般公開する議事録は、現在匿名版として出している議事録とは差別化しないのか。
 - 会員向けの匿名版の議事録を、一般向けにも公開する予定。
 - 一般向け公開の際に、どこまでの情報を公開するのか匿名版を作る段階で確認してもらう必要があると思う。
- 一般公開を行う段階で、関係者に過去の匿名版議事録を再度確認してもらい、省いて欲しい部分があれば匿名版より更に削除する形で進めたい。時期的にはホームページのリニューアルのタイミングを検討している来期の前半くらいで実施したいと考えている。
- 本件は次回の運営委員会でも継続審議とする。

報告事項

(1) 公的統計マイクロデータのためのチュートリアル・講習会開催について

公的統計マイクロデータのためのチュートリアル・講習会開催について、資料6に沿って報告した。

- 1月の講義形式は3つの講演を実施し、非常に有益な情報を提供していただいた。こちらは86名の参加者があった。また、対面形式のチュートリアル・講習会は3月14日に統計数理研究所で開催予定。現時点で11名の申込み。

(2) NewsLetter 第3号の発行について

NewsLetter 第3号の発行予定について、資料7に沿って報告した。

- 第3号のNewsLetterは、グリーンを基調としたデザイン。前号と違ってインタビュー記事はないが、「わたしと公的統計マイクロデータ」と題した南運営委員長と伊藤副委員長の紹介、シンポジウムの開催報告などを掲載予定。

(3) 動画公開について

動画公開について、資料8に沿って報告した。

- これまでのデザインを踏襲するような形でシンポジウムとチュートリアル・講習会（講義形式）の動画制作を進めている。シンポジウム動画は3月末公開予定、チュートリアル・講習会動画についても3月末もしくは4月初旬に公開予定。
- 動画コンテンツも充実してきたので、来年度はウェブサイトのメニュー欄に動画コンテンツへのリンクを貼るようリニューアルも予定している。
- 連合大会企画セッションについて、セッションによっては動画を撮って公開しているところもあるので、来年度は公開を考えてもよいのではないか。
 - 連合大会側や学会の了解は必要か。
 - 実際に収録・公開する場合には、統計学会理事会や連合大会の実行委員へ確認は必要だと思う。もし問合せが必要になった場合には、窓口になることも可能。
 - 来年度の連合大会企画セッションの動画の収録・公開については、実行委員や学会への確認も含めて検討する。

意見交換

(1) 2023年度統計関連学会連合大会 企画セッションについて

2023年度統計関連学会連合大会企画セッション(案)について、資料9に沿って説明した。

- 「公的統計におけるデータ構造化とパネルデータ分析の進展」というテーマを考えている。
- 前回の評議会で、他学会へのアプローチの充実という意見があった。運営委員会側でも社会学会系など他学会と具体的に連携を深めていくのが良いのではないかとということで、

今回の企画セッション案に至った。

- 現段階では、連合大会企画セッションの報告候補者のうち、3名がほぼ確定しているが、今回の企画セッションのねらいを考えた場合、残りの2名を社会学関係者にしてよいか？
 - 今回の統計関連学会企画セッションは、社会学関連の先生声をかけ、広く社会学関連の内容で報告してもらう方向で進める。
- オンサイトでリンクージュやパネル分析した結果を発表する場合、そのデータを持ち出せない可能性がある。また、申請にも時間がかかる懸念がある。
 - データの持ち出しではなく、分析結果の持ち出しは可能ではないか。
 - 持ち出す内容にもよる。
 - 今回の狙いとして「オンサイト施設で何をどこまでできるのか」についてが、オーディエンスにとって有益な情報になると思っている。
 - 持ち出しの手続きに関しては確認して進める。
- 連合大会のテーマとして「パネルデータ」を全面に出した場合、パネルデータ以外のテーマで講演しにくいと考えられるので、社会学関連の方が講演しやすいように、タイトルを変更したいと思う。
 - 「公的統計のデータ構造化とマイクロデータ分析の展開」はどうか？
 - 承知した。
- 他学会との連携について確認したい。来年度(2023年度)は数理社会学会との連携の可能性を模索する方向で進め、東大社研との共催は再来年度(2024年度)の話として進める、という認識でよいか。
 - そのような形で、関係の方々には説明してもらいたい。

(2) コンソーシアム会員区分の変更について

コンソーシアム会員区分の変更(案)について、資料10に沿って説明し、議論した。

- 本件は、継続課題として検討していく。

(3) 広報活動の充実について

時間の関係で、改めて次回の議題とする。